

第6章 計画策定のための調査等

第1節 これまでの成果と課題

本計画を策定するにあたり、市社協と協働で策定した計画「第4次 かまくらささえあい福祉プラン」において、計画の目標に向けた取組内容に対し、かまくらささえあい福祉プラン推進委員会で評価を行い、成果と残された課題を取りまとめました。

【評価方法】 ◎…達成している ○…概ね達成している △…不十分

目標	取組み	評価	残された課題
I 総合的な相談体制及び権利擁護体制の確立	①地域福祉相談室の運営・増設 地域福祉相談室事業の再構築を行い、複雑化する地域課題を解決するための新たな取り組みについて議論を進めており、令和元年度中の実施を予定している。	○	市役所内での福祉の総合窓口の開設を検討、実施するとともに、地域住民等による福祉活動を支援する仕組みづくりを進めます。
	②市社協が行う総合相談事業への支援 生活支援コーディネーターの配置や、市社協運営費への補助を通じて、市社協の総合相談事業に対する取り組みを支援している。 市民後見人の育成として、基礎研修についてはH31.1からH31.2にかけて開催予定。実践研修については、令和元年度実施に向け市社協と協議を行っていく。 法人後見事業については、市長後見申立において後見人候補者として市社協を推薦する等、事業の支援を行っている。	◎	市社協の活動状況を踏まえた支援を行っていきます。
		○	市社協等関係機関、関係団体と連携し、成年後見制度の利用促進を図るとともに、市社協の法人後見事業の取組状況を踏まえた支援を行います。
II 情報の収集と提供	①地域が作成する災害時避難行動要支援者支援プラン（個別支援プラン）への作成支援 避難行動要支援者名簿を警察、消防、自治会町内会（126組織）、民生委員児童委員協議会へ提供している。また、現在避難行動要支援者への意向確認書の発送を準備している。 （対象者 3,836人）	○	名簿の更新作業及び名簿提供先の拡充を図ります。
	②ICTの活用による、新たな情報ツールの構築に向けた検討 平成30年3月から「かまくらヘルシーポイント」事業を開始し、歩いたり、健康イベントへの参加、未病センター利用等でポイントが貯まり、景品に応募できる仕組みになっている。	◎	健康づくりに関するポイント制度を構築し、市民の健康づくりを推進します。 ICTを活用した情報収集・提供の仕組みを検討します。

目標		取組み	評価	残された課題
Ⅲ	関係機関等との連携強化	①地域アセスメントへの支援 地域アセスメント会議等へ参画し、地域課題等の情報共有を図ることで地域アセスメント事業の支援を行っている。	◎	市社協と連携し、地域アセスメント実施に対する支援を行います。
		④市社協が進める関係機関の連携、協働の仕組みづくりへの支援 生活支援コーディネーターの配置や、地域アセスメント会議への参画を通じ、市社協の地域への活動を支援している。	◎	地域福祉推進のための関係機関等との連携等について、市社協とともに推進していきます。
Ⅳ	交流の促進	①講師派遣や場の提供など、地域の集いの場づくりへの支援 地域ケア会議や地域アセスメント会議等に参画し、情報共有を図る等、市社協が行う地区ケア会議づくりを支援している。 市社協が行った食を通じた場づくり等を通じ、交流の場づくりの支援を行っている。	◎	地域における見守り、支え合い活動を支援する市社協の活動に対し支援を行います。 また、地域住民が生活課題を相談できる身近な場所、交流の拠点づくりについて検討します。(しくみ、場所)
			○	
Ⅴ	人材の育成	①地域福祉に関する啓発活動・講座・研修会の実施 生活支援コーディネーターの配置や、アセスメント会議への参画を通じ、市社協の地域への活動を支援している。	◎	通信教育、研修等を通じて、市職員の福祉人材の育成を図ります。 また、地域住民が生活課題を相談できる身近な場所、交流の拠点づくり(しくみ、場所)について検討するとともに、ボランティアグループ等の自立、継続に向けて市社協とともに適切な支援を行います。
		市社協職員との人事交流の実施等を通じ、市福祉部門の職員の能力向上を図っている。また、認知症サポーター、高齢者生活支援サポーターの養成講座など、地域福祉人材の育成策について、今後も拡充を図っていく。	◎	

※かまくらささえあい福祉プラン（平成31年3月）を基に作成

第2節 市民アンケート調査の結果概要

(1) 調査概要

①調査の目的

市民アンケート調査は、鎌倉市地域福祉計画の策定にあたり、近所付き合いや地域活動への参加状況などの実態及び市民の考え方や意識の傾向を把握し、今後の地域福祉施策検討のための基礎資料とするため実施しました。

②調査の概要

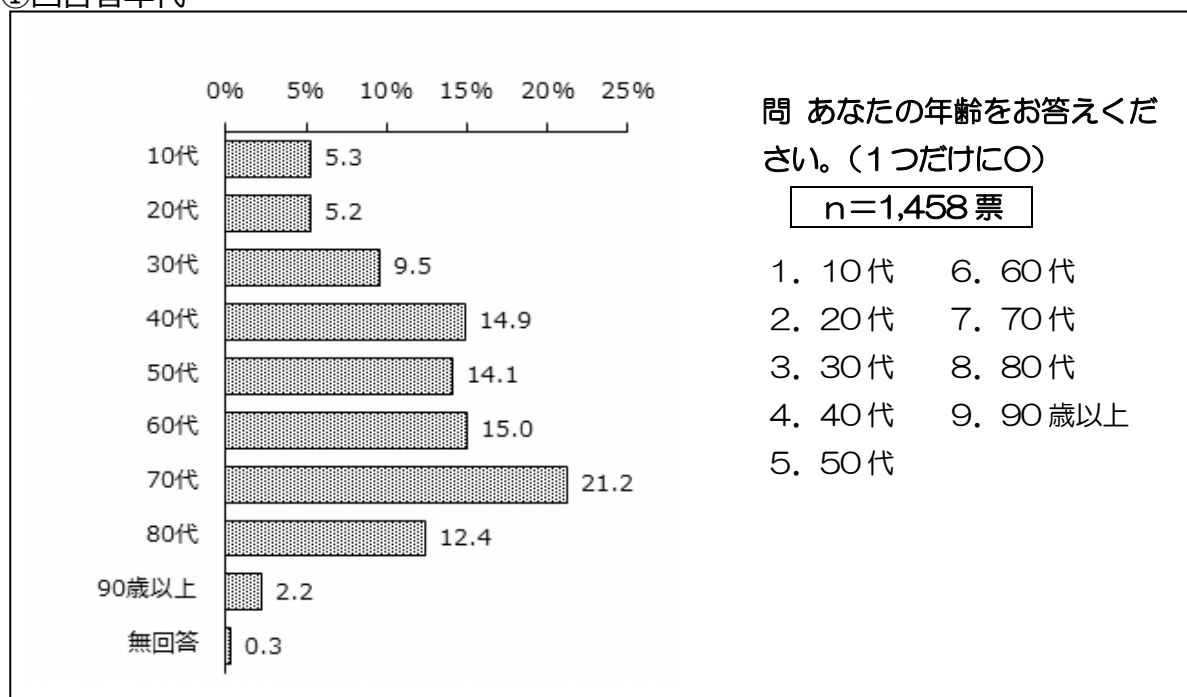
- ・調査地域：鎌倉市域全域
- ・調査対象：住民基本台帳から無作為抽出した市内在住の満13歳以上の市民3,000人
- ・調査期間：令和元年（2019年）6月12日～7月2日
- ・調査方法：郵送配付・郵送回収による調査

③調査票回収

有効回収票数 1,458票 回収率48.9%

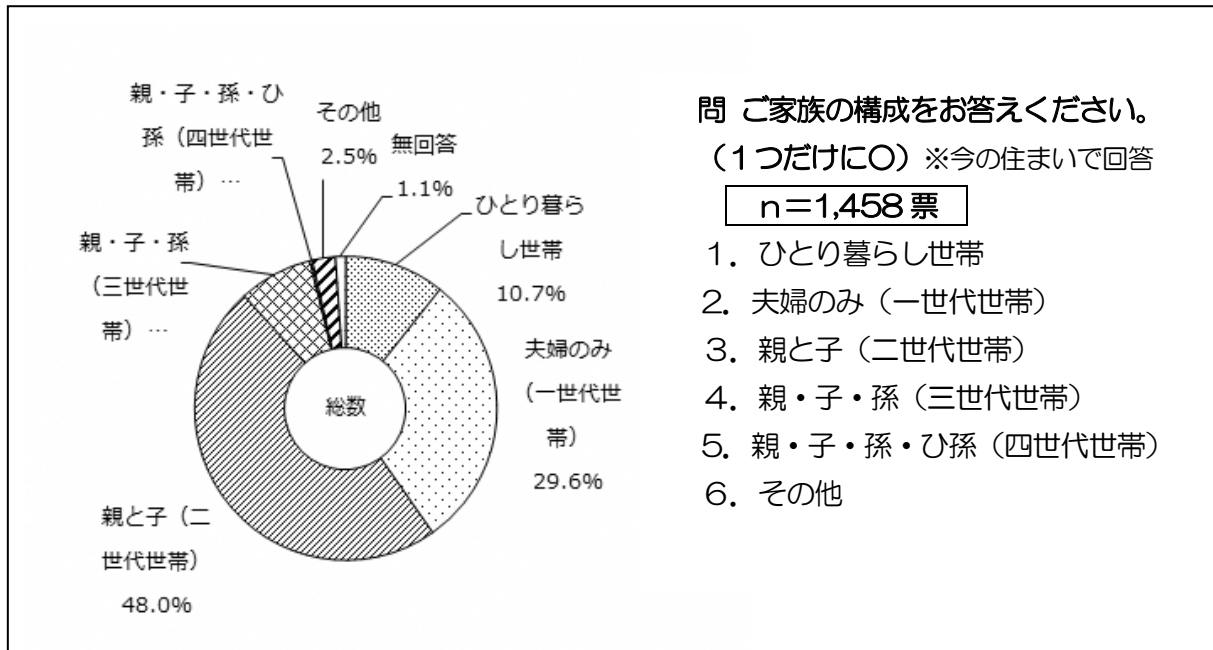
(2) 調査結果の概要

①回答者年代



各年代平均的に配布しましたが、70代をピークに年齢が高いほど、回答率が高くなっています。

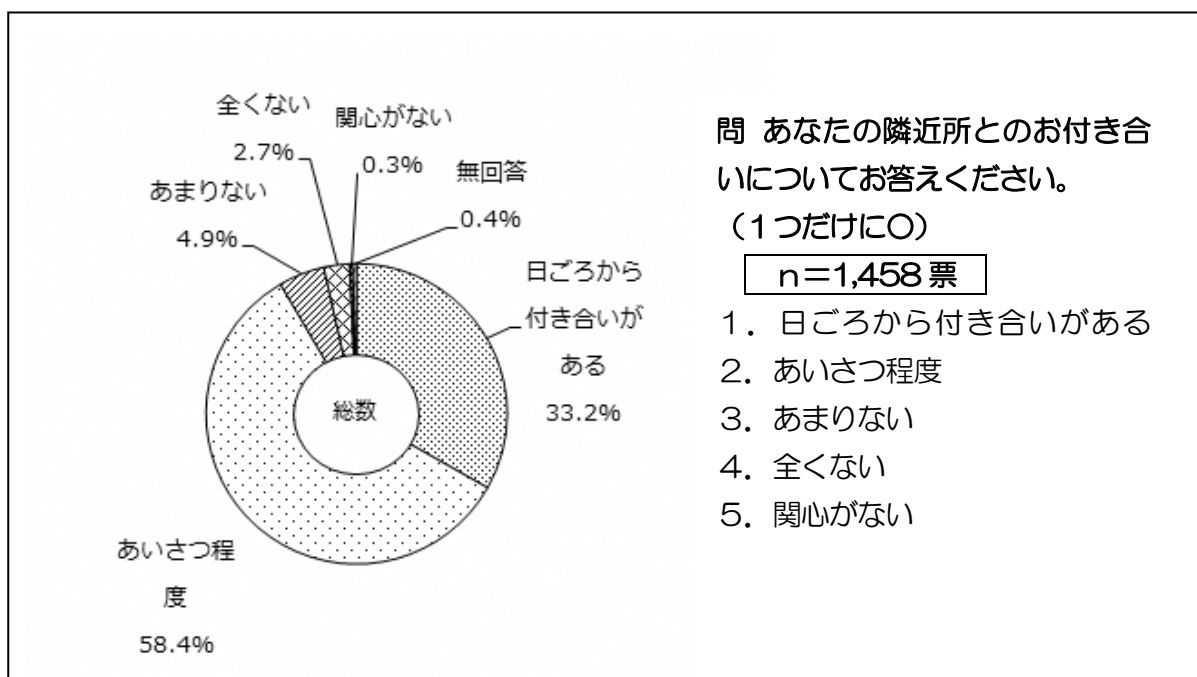
②回答者の家族構成



地域別	全体	ひとり暮らし世帯	(一世世代世帯) 夫婦のみ	(二世世代世帯) 親と子	(三世世代世帯) 親・子・孫	(四世代世帯) 親・子・孫・ひ孫	その他	無回答
全体	1,458	156	431	700	115	4	36	16
	100.0	10.7	29.6	48.0	7.9	0.3	2.5	1.1
鎌倉地域	408	44	124	186	36	3	11	4
	100.0	10.8	30.4	45.6	8.8	0.7	2.7	1.0
腰越地域	210	22	57	110	17	-	2	2
	100.0	10.5	27.1	52.4	8.1	-	1.0	1.0
深沢地域	281	30	78	138	25	1	6	3
	100.0	10.7	27.8	49.1	8.9	0.4	2.1	1.1
大船地域	369	44	126	164	23	-	11	1
	100.0	11.9	34.1	44.4	6.2	-	3.0	0.3
玉縄地域	188	16	45	102	14	-	6	5
	100.0	8.5	23.9	54.3	7.4	-	3.2	2.7
無回答	2	-	1	-	-	-	-	1
	100.0	-	50.0	-	-	-	-	50.0

回答者の家族構成は、親と子 (二世世代世帯) の世帯が約半数を占めており、次いで夫婦のみ世帯が約3割となっています。地域別に見ると、大船地域が他の地域と比べて「一人暮らし世帯、夫婦のみ世帯」の比率が高くなっています。

③近隣づきあい

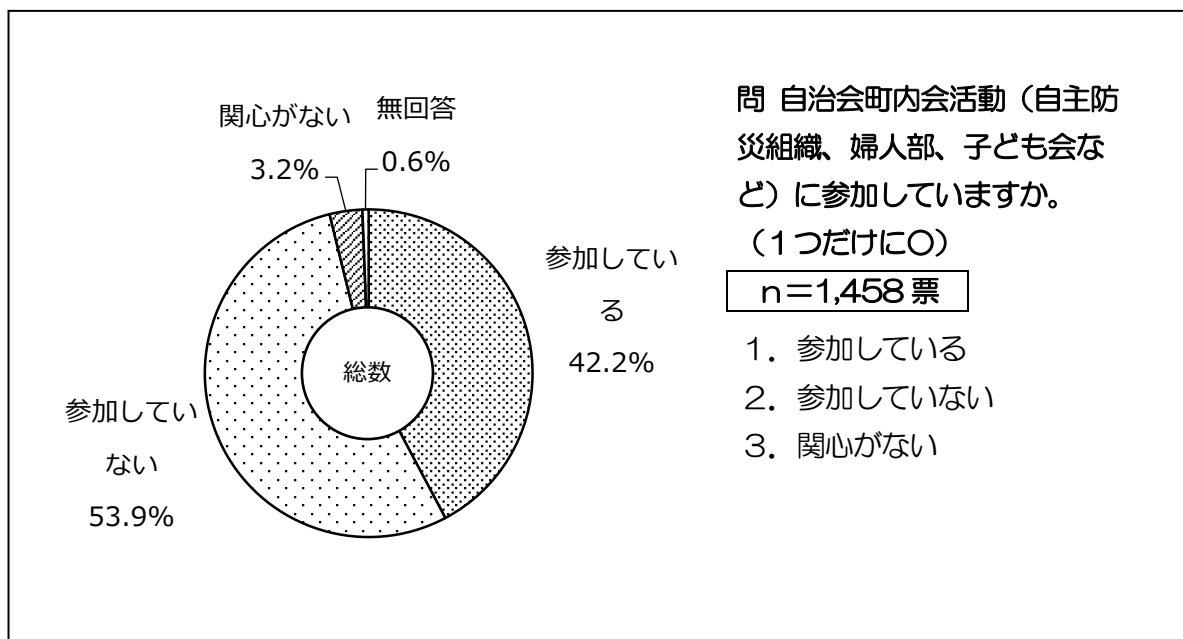


地域別	全体	日ごろから 付き合いがある	あいさつ程度	あまりない	全くない	関心がない	無回答
全体	1,458	484	851	72	40	5	6
	100.0	33.2	58.4	4.9	2.7	0.3	0.4
鎌倉地域	408	150	227	19	9	-	3
	100.0	36.8	55.6	4.7	2.2	-	0.7
腰越地域	210	73	123	8	5	-	1
	100.0	34.8	58.6	3.8	2.4	-	0.5
深沢地域	281	95	171	8	6	-	1
	100.0	33.8	60.9	2.8	2.1	-	0.4
大船地域	369	102	220	26	18	3	-
	100.0	27.6	59.6	7.0	4.9	0.8	-
玉縄地域	188	63	109	11	2	2	1
	100.0	33.5	58.0	5.9	1.1	1.1	0.5
無回答	2	1	1	-	-	-	-
	100.0	50.0	50.0	-	-	-	-

年代別	全体	日ごろから 付き合いがある	あいさつ 程度	あまり ない	全く ない	関心 がない	無 回答
10代	77 100.0	17 22.1	51 66.2	5 6.5	2 2.6	2 2.6	- -
20代	76 100.0	9 11.8	48 63.2	10 13.2	9 11.8	- -	- -
30代	139 100.0	20 14.4	99 71.2	8 5.8	10 7.2	2 1.4	- -
40代	217 100.0	63 29.0	140 64.5	8 3.7	5 2.3	- -	1 0.5
50代	205 100.0	55 26.8	134 65.4	11 5.4	4 2.0	1 0.5	- -
60代	218 100.0	67 30.7	141 64.7	9 4.1	1 0.5	- -	- -
70代	309 100.0	146 47.2	147 47.6	7 2.3	5 1.6	- -	4 1.3
80代	181 100.0	91 50.3	74 40.9	11 6.1	4 2.2	- -	1 0.6
90歳以上	32 100.0	13 40.6	16 50.0	3 9.4	- -	- -	- -
無回答	4 100.0	3 75.0	1 25.0	- -	- -	- -	- -

近所づきあいに関する回答は、全体のうち「あいさつ程度」という回答が6割、「日ごろから付き合いがある」は3割を占めています。また下の地域別にみると、大船地域は他の地域に比べ、隣近所との付き合いがやや薄い傾向が見られます。年代別では、「日ごろから付き合いがある」と答えた割合が10代よりも20代、30代が低くなっています。また、「全くない」と答えた人の理由を見ると、「転入したばかり、不在がち」等の回答が多くありました。

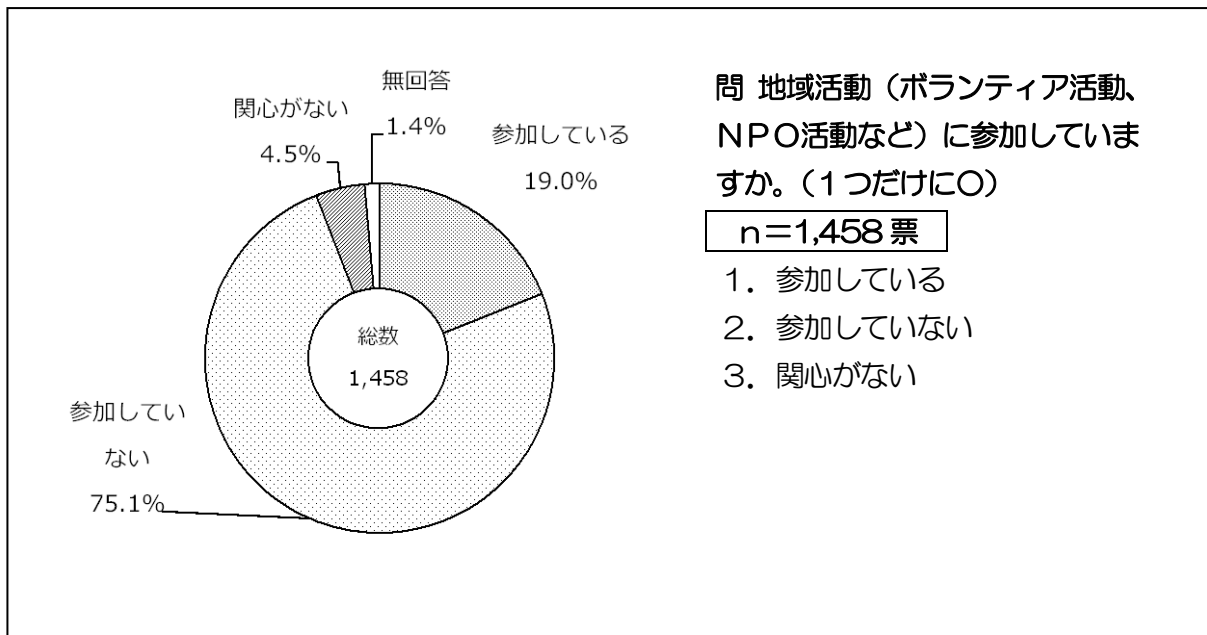
④自治会町内会活動への参加



地域別	全体	参加している	参加していない	関心がない	無回答
全体	1,458	616	786	47	9
	100.0	42.2	53.9	3.2	0.6
鎌倉地域	408	184	210	13	1
	100.0	45.1	51.5	3.2	0.2
腰越地域	210	96	102	9	3
	100.0	45.7	48.6	4.3	1.4
深沢地域	281	125	148	5	3
	100.0	44.5	52.7	1.8	1.1
大船地域	369	125	225	17	2
	100.0	33.9	61.0	4.6	0.5
玉縄地域	188	85	100	3	-
	100.0	45.2	53.2	1.6	-
無回答	2	1	1	-	-
	100.0	50.0	50.0	-	-

全体のうち、「参加している」は約42%でした。大船地域は、他の地域に比べて参加している割合がやや低い傾向にあります、参加しない理由としては、「気持ちがない」以外では「見えない・情報がない」、「参加したい内容がない」、「きっかけがない」という意見があがっています。

⑤ ボランティア等の地域活動への参加



地域別	全体	参加している	参加していない	関心がない	無回答
全体	1,458	277	1,095	66	20
	100.0	19.0	75.1	4.5	1.4
鎌倉	408	87	299	13	9
	100.0	21.3	73.3	3.2	2.2
腰越	210	43	155	9	3
	100.0	20.5	73.8	4.3	1.4
深沢	281	50	222	7	2
	100.0	17.8	79.0	2.5	0.7
大船	369	57	285	26	1
	100.0	15.4	77.2	7.0	0.3
玉縄	188	40	132	11	5
	100.0	21.3	70.2	5.9	2.7
無回答	2	-	2	-	-
	100.0	-	100.0	-	-

年代別	全体	参加している	参加していない	関心がない	無回答
10代	77	11	60	5	1
	100.0	14.3	77.9	6.5	1.3
20代	76	3	65	6	2
	100.0	3.9	85.5	7.9	2.6
30代	139	16	114	9	-
	100.0	11.5	82.0	6.5	-
40代	217	36	162	17	2
	100.0	16.6	74.7	7.8	0.9
50代	205	41	153	9	2
	100.0	20.0	74.6	4.4	1.0
60代	218	46	163	7	2
	100.0	21.1	74.8	3.2	0.9
70代	309	88	210	6	5
	100.0	28.5	68.0	1.9	1.6
80代	181	34	134	7	6
	100.0	18.8	74.0	3.9	3.3
90歳以上	32	1	31	-	-
	100.0	3.1	96.9	-	-
無回答	4	1	3	-	-
	100.0	25.0	75.0	-	-

「参加している」は19%でした。75%が「参加していない」と答えています。また、大船地域は他地域に比べ「参加している」割合が低い傾向にあります。

参加していない理由（自由意見）を見ると、「参加したいが情報が無い」、「きっかけが無い」という意見が多くなっています。年代別に見ると70代が最も参加率が高くなっています。

⑥居場所

問 地域、職場、学校など、家以外の居場所はありますか。(1つだけに○)

n=1,458票

1. ある 2. ない

年代別		全体	ある	ない	無回答
全体		1,458	1,147	258	53
		100.0	78.7	17.7	3.6
年齢	10代	77	74	3	-
		100.0	96.1	3.9	-
	20代	76	70	4	2
		100.0	92.1	5.3	2.6
	30代	139	113	22	4
		100.0	81.3	15.8	2.9
	40代	217	183	31	3
		100.0	84.3	14.3	1.4
	50代	205	173	28	4
		100.0	84.4	13.7	2.0
60代	218	168	42	8	
	100.0	77.1	19.3	3.7	
70代	309	233	59	17	
	100.0	75.4	19.1	5.5	
80代	181	114	54	13	
	100.0	63.0	29.8	7.2	
90歳以上	32	17	13	2	
	100.0	53.1	40.6	6.3	
無回答	4	2	2	-	
	100.0	50.0	50.0	-	

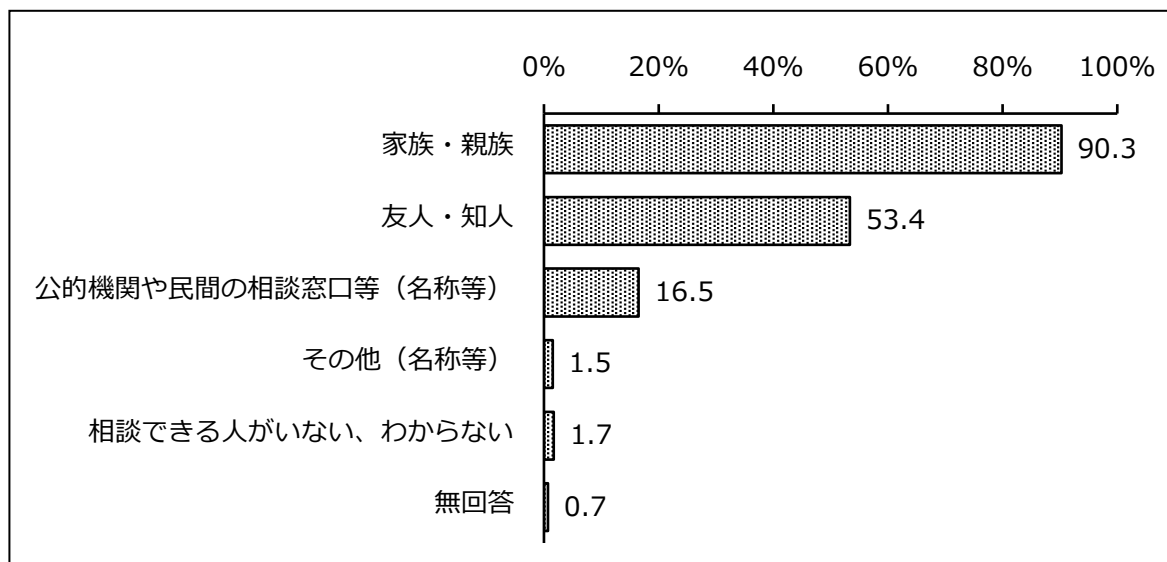
「居場所がない」は17.7%を占めています。年代別では、60代から次第に比率が高くなり、高齢になればなるほど「家以外の居場所がない」という傾向が見られます。

⑦困った時の相談先

問 生活の困りごとなどが起こった時、だれに相談しますか。(複数回答可)

n=1,458 票 (回答総数 2,392)

1. 家族・親族
2. 友人・知人
3. 公的機関や民間の相談窓口等
4. その他(名称等)
5. 相談できる人がいない、わからない

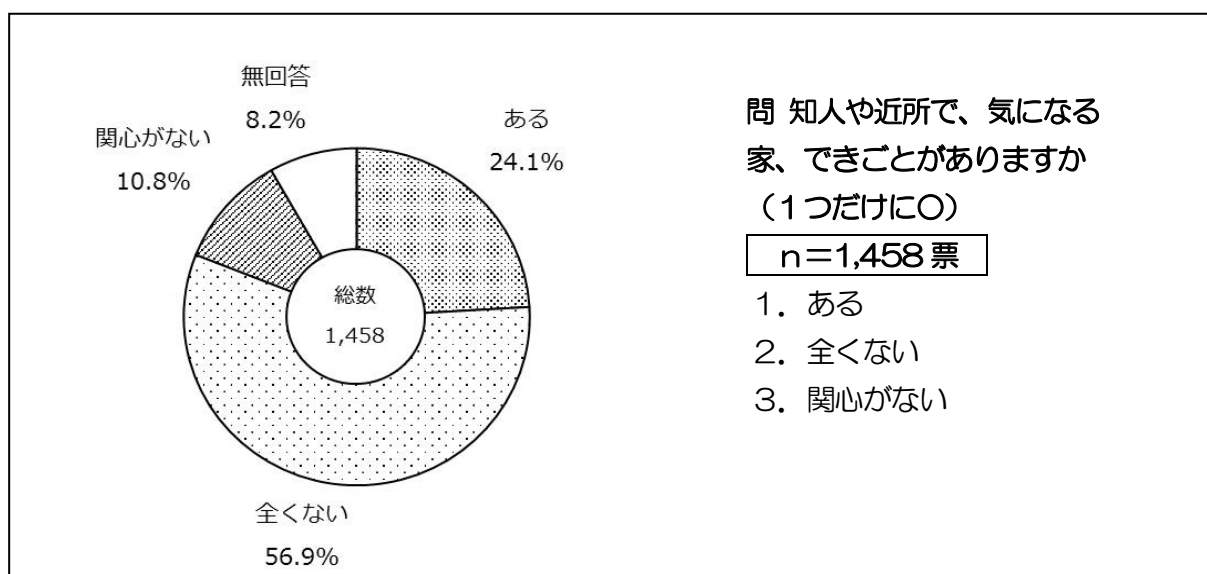


		全体	家族・親族	友人・知人	民間の相談 公的機関や	その他 (名称等)	人がいない 相談できる	無回答
全体		1,458 100.0	1,316 90.3	778 53.4	241 16.5	22 1.5	25 1.7	10 0.7
年代別	10代	77 100.0	71 92.2	57 74.0	1 1.3	-	1 1.3	-
	20代	76 100.0	70 92.1	54 71.1	6 7.9	1 1.3	-	-
	30代	139 100.0	130 93.5	94 67.6	16 11.5	3 2.2	3 2.2	-
	40代	217 100.0	186 85.7	141 65.0	31 14.3	-	3 1.4	-
	50代	205 100.0	187 91.2	125 61.0	39 19.0	2 1.0	4 2.0	1 0.5
	60代	218 100.0	196 89.9	108 49.5	46 21.1	4 1.8	6 2.8	-
	70代	309 100.0	278 90.0	143 46.3	63 20.4	8 2.6	4 1.3	5 1.6
	80代	181 100.0	162 89.5	50 27.6	34 18.8	4 2.2	4 2.2	4 2.2
	90歳以上	32 100.0	32 100.0	3 9.4	5 15.6	-	-	-
	無回答	4 100.0	4 100.0	3 75.0	-	-	-	-

「公的機関や民間の相談窓口」及び「その他」に最も多く挙げられていたのは、市役所が18票で、次がケアマネージャー9票、インターネット3票、医師等医療関係3票という結果でした。他に民生委員（2票）、デイサービス等の施設（3票）、弁護士（2票）、消費生活センター（2票）、地域包括センター、子育て支援センター等と続いています。

全世代で家族への相談が多いですが、高齢になるほど友人・知人・公的機関等外部の相談割合が高まっています。

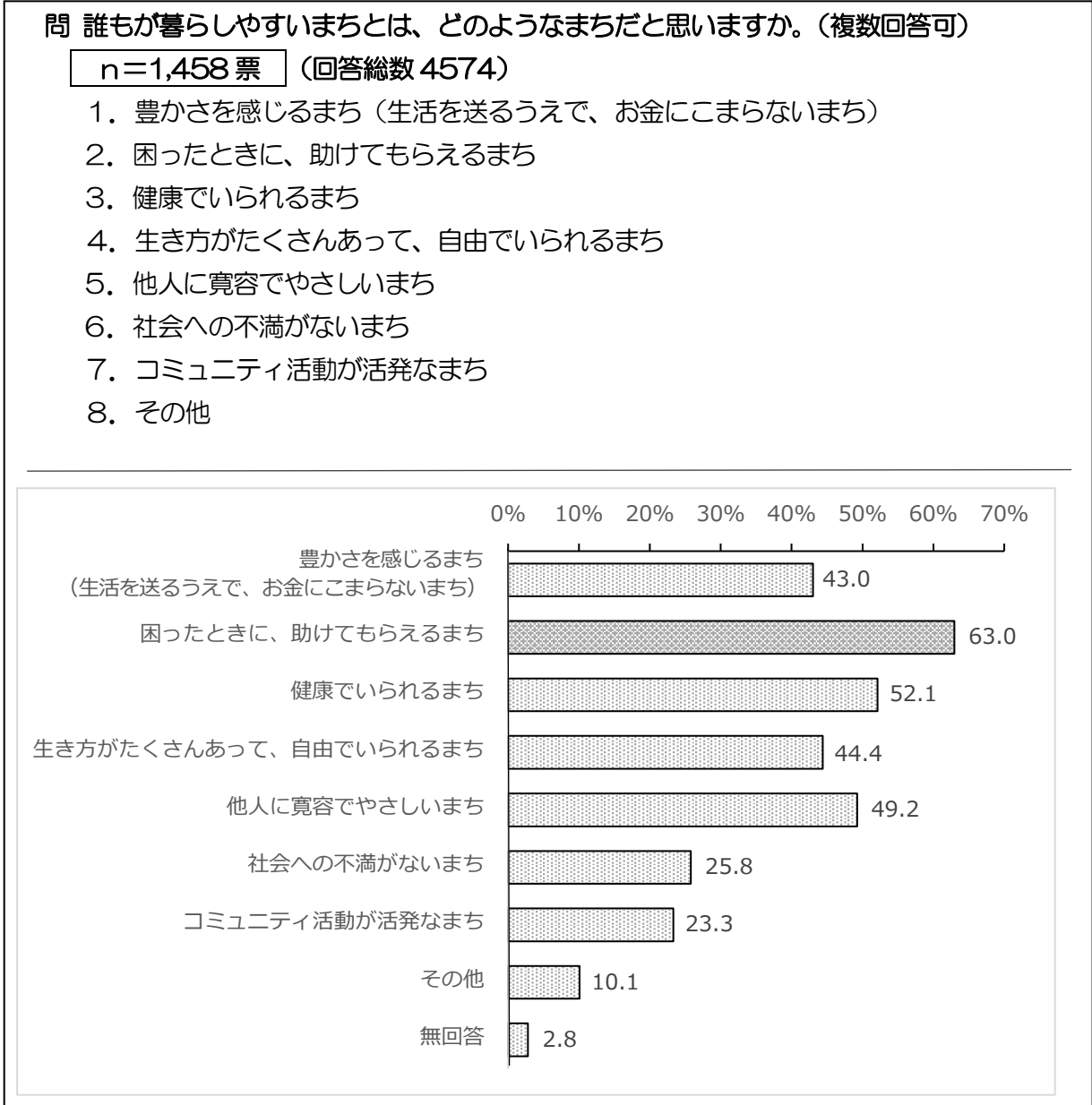
⑧身近で気になること



	全体	ある	全くない	関心がない	無回答
全体 (%)	100.0	24.1	56.9	10.8	8.2
10代	77 100.0	14 18.2	55 71.4	5 6.5	3 3.9
20代	76 100.0	13 17.1	38 50.0	18 23.7	7 9.2
30代	139 100.0	46 33.1	76 54.7	9 6.5	8 5.8

「ある」が、24.1%となった一方で、「関心がない」が10.8%となりました。年代別では、20代の「関心がない」が最も多く、近所付き合いが「あまりない」「全くない」の上位を占めた20代との関連性が見うけられました。10代は「全くない」が多く、30代になると「気になることがある」の比率が他の年代よりも高くなっています。具体的なカテゴリでは、心配な高齢者、子ども、空き家、ゴミ問題、危険箇所等となっています。

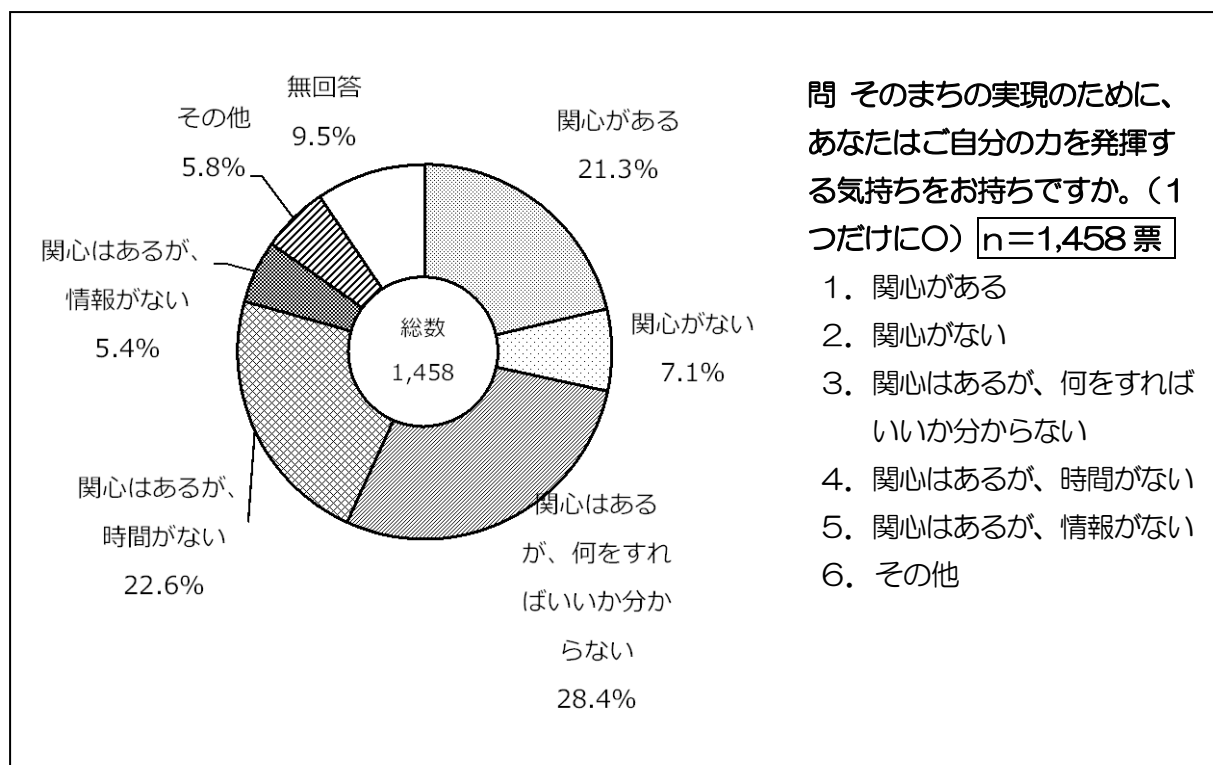
⑨暮らしやすいまちの定義



最も多い回答は、「困ったときに、助けてもらえるまち」となりました。

自由意見では、安全安心なまち、清潔できれいなまち、高齢者が住みやすいまち、子育てがしやすいまち等があげられました。

⑩意欲・関心

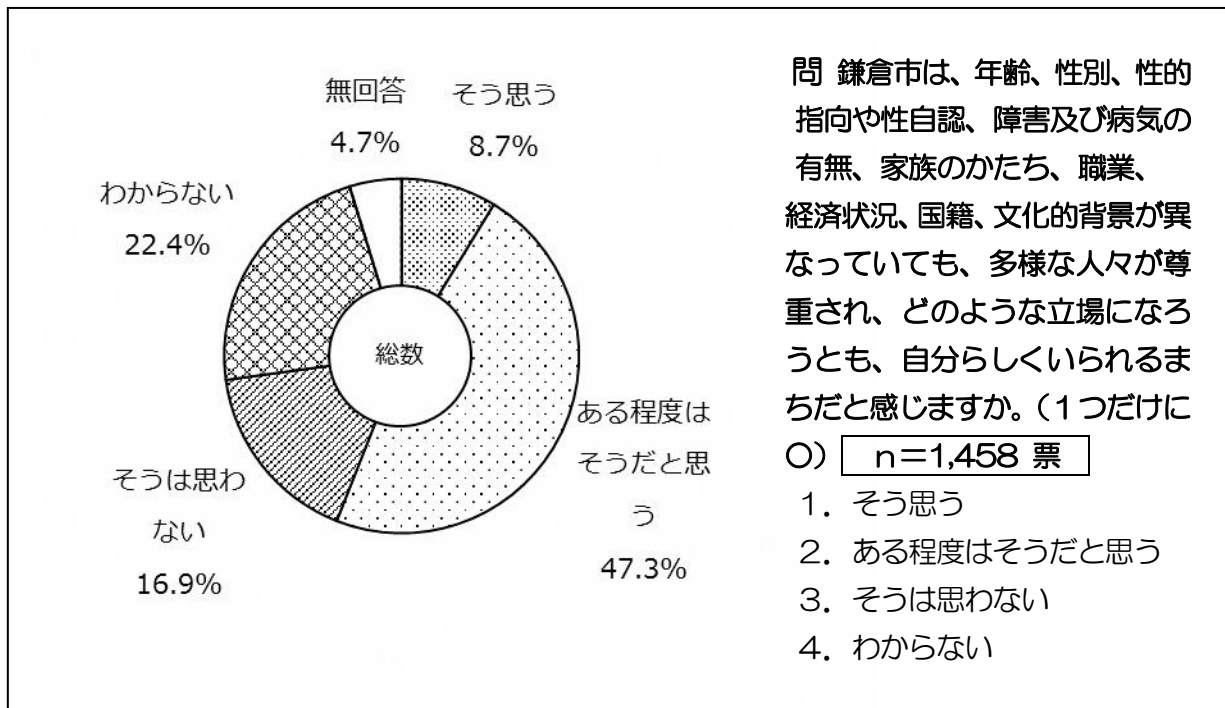


無回答と「関心がない」を除くと、約8割の方が、力を発揮する気持ちがあるという結果になっています。

また、関心はあるが何をすればよいかわからない人が約3割もいます。自由意見をみても、情報提供・発信（方法の工夫）が必要であることが分かります。

「関心がある」を回答した自由意見では、暮らしやすいまちにするために役に立ちたい、何かできることをやりたいと考える、という意見が多く見られました。

⑪鎌倉市の現状



鎌倉のまちが「どのような立場でも自分らしくいられるまち」である事に肯定的な回答者は5割を超えています。

⑫自由意見「生活の中で不自由を感じている、悩んでいること」

- (最も多い意見)
- ・交通の不便、公共交通の使いにくさ、道路の渋滞、江ノ電の混雑など、交通安全上の問題
- (その他多かった意見)
- ・買い物の不便さとして、身近な商店が減少していること、坂道のある環境の中で、高齢化による免許返納で出かける足を失うこと
 - ・子育ての不安、情報が届かず、近くで相談できる場所がない、公的機関や仕組みをどう使うか分かりにくい
 - ・生活のルール・マナーに関すること
- 分別がされないゴミ出しの問題、不法投棄、観光客のゴミ捨て、違法駐車、野良猫のえさやり
- ・まちづくりに関わること
- 道路の幅員の狭さや、歩きにくい凸凹のある歩道など
- ・不足している施設
- 高齢者住宅、高齢者通所施設、子どもの遊び場、公園、駐輪場、市営墓地、学習センター、スポーツ施設等

第3節 地域懇談会での意見

(1) 開催概要

①地域懇談会の目的

鎌倉市地域福祉計画の策定の基礎資料とするため、各地域別の現状・課題等について参加者と意見交換を行うとともに、参加者の意識醸成を図ることを目的に実施しました。

②地域懇談会の進め方

地域懇談会は各地域にて、以下のとおり開催しました。

平成31年(2019年)3月策定の市社協の地域福祉活動計画である「かまくらささえあい福祉プラン」の作成の際に、アンケート調査及びヒアリングを通して得られた課題のうち、以下の2つのテーマを中心に各地域において、参加者と意見交換を実施しました。

【かまくらささえあい福祉プラン作成時に得られた課題に基づく2つのテーマ】

- ①市民が生活していく中で、気軽に相談できる体制づくり
- ②市民が地域福祉活動を行う上での、人材と活動拠点の確保

③開催日・参加者数

日時	会場	対象地域	参加者数
7月31日(水)10:00-12:00	腰越学習センター・第1集会室	腰越地域	10人
7月31日(水)13:30-15:30	腰越学習センター・第3集会室	西鎌倉地域	14人
8月 6日(火)10:00-12:00	福祉センター・第3会議室	鎌倉地域	19人
8月 6日(火)14:30-16:30	深沢学習センター・第3集会室	深沢地域	24人
8月 8日(木)14:00-16:00	玉縄学習センター・第2集会室	玉縄地域	14人
8月 8日(木)18:00-20:00	大船学習センター・第3集会室	大船地域	17人

④地域懇談会の方式

当日の参加者数に応じて2~3つのグループに分かれ、計画説明の後、ワークショップ方式で実施しました。課題や取り組みのアイデア抽出はKJ法により行いました。

⑤地域懇談会の実施内容

■参加者の地域福祉に関する意識や考えについて書き出す

地域福祉計画の説明に基づいて、参加者の地域福祉に関する意識や日頃感じていること、起きている事柄などを2つのテーマを中心に、自由に付箋紙に書き出します。

付箋紙の内容を班の方々と共有しながら、模造紙に貼り付けていきます。

■付箋紙の内容を分類し、見出しを付ける

付箋紙の内容説明と模造紙への貼り付けが終了したら、付箋の内容が似ているものを分類し、確認しながら話し合い、そのグループに見出しを付けます。

⑥当日の流れ

地域懇談会は概ね以下の流れで進めました。

時間	内容	流れ・ポイントなど
00～30分 (30分間)	あいさつ・説明 ・地域福祉計画の意義・概要・手順など	あいさつ 計画について (鎌倉市地域福祉計画推進委員会委員長) ・要点、目的、ほしい意見などをわかりやすく紹介 ・グループ討議につなげる
30～100分 (70分間)	グループ討議 ・グループに分かれて地域課題などについて意見だし、意見交換	討議の進め方について説明 ・自己紹介 ・2つのテーマについて紹介 ・各自の意見を求める、引き出す * 模造紙、付箋紙、サインペン、マーカー数色
100～120分 (20分間)	まとめ ・グループ発表・感想 ・意見等の整理	グループごとに発表 ・グループの代表者が行う ・整理した意見の紹介 ・できれば計画の向かう方向などについてイメージを見つける
120分	閉会・あいさつ	・意見の取り扱いなど ワークショップで出された意見は取りまとめたものをホームページで公開する。

(2) 懇談会における意見のまとめ

地域懇談会での意見を整理するとともに、取り組むべき課題をまとめました。

意見のとりまとめにあたっての考え方は以下のとおりです。

- ・平成30年度に市社協が行った地域福祉活動計画策定の際に、とりまとめた地区懇談会での意見整理の項目に従ってそれぞれの意見整理を行いました。その項目は以下の6つです。

- ①担い手について
- ②活動場所について
- ③地域の活動について
- ④情報の共有について
- ⑤災害時について
- ⑥市・市社協について

平成30度に行われた地区懇談会からの意見と今回の地域懇談会での意見はおおむね同様でした。地域懇談会で設定したテーマの中で、特に多くの意見があった「相談窓口」については、「市・市社協について」の項にその取りまとめを挿入しました。

①担い手について

■現状・問題点

◆人材不足、人材の高齢化

- ・地域参加、社会参加できる場、チャンスが減っている
- ・後継者がいない、地域デビューの方法が分からない
- ・民生委員の仕事が多すぎる、まじめな人に集中している
- ・地域活動の担い手が不足している
- ・正規で働いている人は地域活動への参加は難しい
- ・役員、担当者は欠員だらけ、子ども会やボランティアグループ役員のなり手が少ない
- ・地域との関わりが活発なのは、子どものいる家庭
- ・活動を知らない人が多い、知るソースが少ない
- ・3人の所を3年間2人でやっていて、後任者がいない
→地域活動を支える高齢の方の負担が大きい
- ・コミュニティが希薄になってきた
- ・若い人たちの関心が少ないような気がする

◆情報共有、連携がうまくいっている地域もある

- ・民生委員として困った時の窓口は包括
- ・民生委員が誰か分からないので相談できない
- ・包括のアウトリーチ型の支援スタンスが良い

■課題、提案又は対応	
◆多彩なテーマ設定で参加の機会をつくる、増やす	
・男の料理教室、その後の呑み会参加、サロンなどの実施	
・まつり等子どもを含めた参加しやすいイベントを開催し、顔をつなぐ機会を増やしていく	
◆地域情報の共有化と役割の明確化	
・横断的な話し合いの場をつくる	

②活動場所について

■現状・問題点	
◆活動する場所がない	
・イベントの開催場所がない	
・地域の活動拠点、場がない、あっても使いにくい	
・見守り、その他の会合の場所がない	
・施設に駐車場がないので車が使えない	
・参加料を取ると人が来ない	
・空き家を活用していく	
→住んでいる家の空いている部屋を貸す方がよいかも	
→自治会館が欲しい、集まる、話す、たまり場として	
■課題、提案又は対応	
◆活動の場、機会をつくる	
・空家等の活用によりサロンや食堂などを活動の場にしていく	
・子どもの活動、見守りを通じた地域とのつながりを拡大していく	

③地域の活動について

■現状・問題点	
◆活動が活発な地域もある	
・活動の自主グループを作った	
・個人宅の駐車場にベンチを設置	
・困った時は、今の自治会のメンバーが話しを聴いてくれる	
・夏祭などで他の団体と連携している	
・場所(地区)によって世代交代がすすんでいる	
・子ども、高齢、障害等の分野を超えてのフォローがある	
◆入口、キッカケが必要	
・きっかけが必要	
・老人会、子ども会、自治会をつなぐ組織が必要とのことであいあいの会を始めた、夏祭りは合同で開催	
・若い人(特に現役男性)の参加しやすい環境をつくる	
・話す機会が減り付き合いのない隣近所、独居高齢者が多い	

<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化により自治会の役員ができなくなる ・高齢者は急に動けなくなることがある ・自治会役員の高齢化、回覧板の持ち回りも大変 ・班長は交替するがボランティアはずっと続くので大変
<p>◆多様な活動が地域内交流を促している</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供会、老人会、魚釣り大会、体操教室などを通じて、若い世代の参加を促している ・高齢化しているが、弁当の配達をしている人がいる ・規約なし、会計なし、面倒なことを外して活動している ・出前コーヒーを各地域へ提供している ・予算も場所もなく公園ではじめた、青空だから雨天は中止 <p>→健康第一、ポールウォーキングが定着</p>
<p>■課題、提案又は対応</p>
<p>◆多様な取り組みで地域活動を広げよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもつながり、イベントで親同士もつながる ・誕生日、敬老の日のプレゼントをキッカケにする ・ボランティアバンクをつくる ・小学校や学童のおやじの会との連携 <p>→若いお父さんが出てくる</p>

④情報の共有について

<p>■現状・問題点</p>
<p>◆情報も縦割り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政は地域活動情報をあまり持っていない、目が地域を向いていない、市社協のほうが良く掴んでいる ・民生委員はつなげる役、解決できる場所へ持って行く →民生委員を町内会が後押ししている地区もある ・地域で民生委員だと目立つように心掛けている、相手が声をかけやすいように →頼りないのか不信感か、なかなかドアを開けてくれない ・民生委員は包括とつなぐ役割も →情報共有に個人情報条例の壁がある ・要支援の方の家族(子ども)は、地域や民生委員とのつながりを知らない →障害者と民生委員が互いにどこにいるかわからない →困りごとを持っている人の情報が知りたくても見えない ・高齢者は包括や民生委員に相談しに行くことが多い →要支援の方は民生委員を知らないことが多い ・介護保険制度ができてボランティアの利用が減った
<p>◆大事な人的な交流</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・福祉相談員と民生委員との接点、交流の促進 →自分の地域にどんな人がいるか知る努力も必要 ・包括、民生委員、他グループとの情報共有を促す →障害者、相談員、専門員とをつなぐ、その情報共有が必要 ・プチボランティア、子どものつながりを活かしていく →地域で作る市民レベルの人材バンク ・気軽に「できます」掲示板 →「こういうことができる」等の人材情報の提供
<p>■課題、提案又は対応</p>
<ul style="list-style-type: none"> ◆ネットや電話も活用し若い世代にもアピール
<ul style="list-style-type: none"> ・地域情報の共有システムを作る（地区社協などで）→なんでも110番の開設
<ul style="list-style-type: none"> ・シングルマザーや周りに助けがない人で窓口に来ない人の声を拾う方法を検討 →SNSなどを活用した多様な情報発信

⑤災害時について

<p>■現状・問題点</p>
<ul style="list-style-type: none"> ◆避難行動要支援者の登録をもっと正確に ・避難行動要支援者の存在を公表することは(本人の)合意がいる ・地区社協にボランティアリスト、広く活用したい ・避難行動要支援者、一人暮らし高齢者リスト作りも丸投げ、そして機能していない →リストが災害時の情報活用に活かされていない →防災マニュアルは地域が先行して作成、市は後追いに ・障害者情報は家の中に入り込んでいて把握しにくい、結果リストに反映されない →家族は知られたくないから、知らせないこともある ・障害児を行政に見てもらうことが当然と言う若い親もいる →「子どもを殺して自分も死ぬ」という問題を抱える親もいて心配 ・施設、学校が地域にあると「障害」が見えるが、近くにないと見えない
<ul style="list-style-type: none"> ◆わかりやすい使いやすいものを ・防災マップは冷蔵庫に貼って、だれも見やすいわかりやすいものを →わかりやすい避難場所の明示 ・地震、防災を巡る疎遠化、孤独化に対応し地域に安心安全の情報共有を図った ・情報、お知らせをポスティング、町内に入って扉を叩く
<p>■課題、提案又は対応</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者にもわかりやすい災害情報の発信を促す⇒わかりやすく伝えて共有を
<ul style="list-style-type: none"> ◆要支援者への対応と災害時の対応体制の検討と確認
<ul style="list-style-type: none"> ・行政内部での避難行動要支援者対応の検討による対応体制の確認
<ul style="list-style-type: none"> ・避難行動要支援者対応案の地域との共有と地域ごとの対応、対策の確認、検討

⑥市・市社協について

■現状・問題点

◆相談窓口が冷たい

- ・親身になってもらえる窓口、相談を受ける側が横につながっていない
- ・窓口の人が冷たい、話をしっかり聞いてくれない
- 気軽に相談できる窓口、優しい対応、対応フローの整備
- 問題整理、引き継ぎシートを市社協も作りはじめている
- 助けを求めている声が十分拾えていない
- ・相談者の困り事と支援者の受け止め方が一致していないことがある
- 包括は高齢者対象のため、子どもや障害のある方の相談にのれない

◆相談窓口の環境整備

- ・窓口はとなりの話が聞こえたり、顔が見えないようにしてほしい
- ・「生活 110 番」などでのワンストップ窓口をつくる
- ・地域のスーパーや人気のお店に定期的に相談員が配置される

◆敷居の低いワンストップの相談窓口を

- ・市がワンストップで受けて振り分ける体制
- 担当窓口を呼んで同席させるようなしくみ

◆周知の時間が少なかった地域懇談会

- ・懇談会の周知の期間が短い、もっと早くすべき
- 人が集まるイベントなどに日程を合わせる工夫ができたはず
- 困っている側の意見を聞くというスタンスが見られない
- ・懇談会の持ち方に疑問、わからないことが多すぎる
- ・地域福祉計画と言われても何をしたら良いのかわからない
- ・意見聴取の方法が悪く、意見が反映されないで諦めている

■課題、提案又は対応

◆入りやすくわかりやすい総合相談窓口の設置

- ・総合的、横断的なマネジメント機能があり、市民情報も持っている複合的な窓口
- 一定の権限を持ち、法的な機能も備えている

・支所にも身近なワンストップ窓口を→課題の対応ができる窓口へ

・コールセンターの再整備

・相談コーナーでコーヒーやお菓子をだしてみる

・医者、弁護士他専門職との調整、協力体制を組む

◆さらにわかりやすい行政計画や取り組みの進め方

- ・市の具体的な提案を提示されると考えやすかった
- 計画をどうすすめるのかわからない